様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　５月２８日現在

機関番号：３４５１４
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０５３０８５５
研究課題名（和文）日本舞踊を教材とした「日本の伝統・文化」の理解教育に関する教員研修プログラム開発
研究課題名（英文）Development of a Teacher Training Program to Teach "Japanese Tradition and Culture" Using *Nihon Buyo* as a Teaching Material
研究代表者
畑野　裕子（HATANO YUKO）
神戸親和女子大学・発達教育学部・教授
研究者番号：８０１６７５８５

研究成果の概要（和文）： 本研究は、国際社会に生きる日本人として、多様な文化を尊重できる態度や資質を育む教育を推進するための教員の資質・能力の形成を目指して、「日本の伝統・文化」の理解教育の推進を図るものである。具体的には、「日本の伝統・文化」の理解教育に関する教員研修プログラムについて開発を試み、日本舞踊を教材とした試案を作成した。そして、本研究者自身が、その試案を実施して、その結果について実践的に検証を試みた。

研究成果の概要（英文）： Considering the age of globalization, it is needed to create educational methods to nurture attitudes and qualities especially among young Japanese to respect diverse cultures. The aim of the present study is to develop a teacher training program to promote further understanding by students of "Japanese Tradition and Culture" to meet the need. The author specifically created a model training program using *nihon buyo* as its teaching material, put the program into practice, and evaluated the program by several analytical methods including free comments by the trainees. The study was qualitatively augmented by the author's observation based on her experience as *kyudosha,* a seeker of the *geido*, to give a comprehensive view of the study results.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	700,000	210,000	910,000
2009 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
総　計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教科教育学
キーワード：カリキュラム構成・開発、日本舞踊、日本の伝統・文化、教員研修プログラム

１．研究開始当初の背景

社会における時代的変化や、国際化の進展を背景として、平成 18 年 12 月に改正された新教育基本法では、教育の目標に「伝統と文化を尊重し、」という文言が加えられた。したがって、日本の伝統や文化の価値を理解し尊重する教育が、これまでにもまして必要とされ、それを担う人材が求められてくると思われた。

近年、新たに日本の伝統や文化に関わる教育事業や実践が始められているものの、これまで学校教育における総合的な研究は、数少なかった。学校教育における日本の伝統・文化の教育に関する動向を概括すると、平成 15

年「『和文化の風』を学校にー心技体の場づくり」（中村哲編著．明治図書）の出版が、画期的な実践研究と思われた。その著書の中で、多くの執筆者は、伝統文化の関係者が行った実践の紹介を行っていた。また、本研究者は、自身の日本舞踊の実践事例を報告した（畑野裕子「童謡の『うさぎ』の踊りをみてみると・・・ー幼稚園における日本舞踊の実践事例からー」pp.173-182.）。その特徴は、自身が伝統的日本文化である日本舞踊の実践者であると共に、教育現場において実践可能なプランニングを行い、本人自らが実演・実践し、それを分析・検討していたことであった。本研究開始当初は、他の実践報告において、研究者、教師、伝統文化の専門家の有志が、個別に日本の伝統・文化に関わる教育理念、教育内容、その具体的な方法論や教材研究などについて、取り組み始めたばかりであった。

また、平成 17 年度～19 年度の科学研究費補助金による先行研究では、特に日本舞踊の身体技法を中心とした日本の伝統的文化の教材開発を実施しており、これまでに研究者が取り上げなかった日本の伝統的文化である日本舞踊教材について、中等教育における教材開発を試みていた。

一方、その間の教育事業の動向をみてみると、平成 17 年度に東京都教育委員会による「日本の伝統・文化理解教育推進事業」が始められていた。また、兵庫県教育委員会では、平成 18 年に、「日本の文化理解推進事業」を実施し、平成 19 年度から兵庫県独自の科目「日本の文化」として、県立高等学校への普及を図っていた。そして、①新たに設定した学校設定科目「日本の文化」の教材、②日本史及びすでに各学校で設定する学校設定教科・科目等、③総合的な学習の時間、④海外修学旅行、研修旅行の事前研修における活用を前提に、教材・冊子と DVD が作成された。これまでになかった学習指導内容を、学校現場ですぐに活用可能な教材として作成したことは、画期的な試みと思われた。教材として、能・狂言、歌舞伎、人形浄瑠璃については、各々例示されていた。しかし、日本舞踊に関しては例示されておらず、それらの芸能と同等に伝統文化の一翼をなす日本の伝統的身体表現である日本舞踊も、知見のある研究・教育者の協力により、例示されることが望まれると考えた。そこで、平成 17 年度～19 年度の先行研究成果を日本舞踊教材として、反映させることが可能と考えた。

さらに、高等教育をみると、日本文化理解教育をプロデュースできる教員の養成として、「日本文化理解教育プログラム」が平成 20 年度より、初めて兵庫教育大学大学院で開始された。このカリキュラムに関して、日本舞踊が日本文化身体教材として取り上げられ、本研究者が担当予定であった。

以上のような本研究課題の申請時における研究の背景に基づき、日本舞踊を教材とした「日本の伝統・文化」の理解教育に関する教員研修プログラム開発を試みることとした。

２．研究の目的

本研究の目的は、国際社会に生きる日本人として、多様な文化を尊重できる態度や資質を育む教育を推進することができる教員の資質・能力の形成を目指して、「日本の伝統・文化」の理解教育を推進する教員研修プログラムを、日本舞踊を教材とした保健体育科・総合的学習・学校設定科目の試みとして作成し、実践的に検証することである。

３．研究の方法

本研究では、次のような方法で「日本の伝統・文化」の理解教育を推進する教員研修プログラムを、日本舞踊を教材とした保健体育科・総合的学習・学校設定科目の試みとして開発して、実践的に検討した。

その具体的な研究計画・方法は３カ年にわたり、本研究課題を達成すべく、年度ごとに、前年までの研究成果を反映させながら、以下に示す研究方法で展開した。

(1) 平成 20 年度
教員研修プログラムの原案作成：
「日本の伝統・文化」理解教育、「日本舞踊」とその教育に関する実践・資料等の収集（フィールドワーク・インタビュー）とその検討から、教員研修プログラムの原案を作成した。

(2) 平成 21 年度
所作情報追加による教員研修プログラムの原案の改訂と試案の作成：
「日本の伝統・文化」としての「日本舞踊の基本所作」の動作学的メカニズムの解明を中心に、所作情報を追加して、教員研修プログラムの原案を改訂して、試案を作成した。

(3) 平成 22 年度
「日本の伝統・文化」理解教育の教員研修プログラムの実践と検証：
「日本舞踊」を教材とした保健体育科・総合的学習・学校設定科目の試みとして、「日本の伝統・文化」理解教育の教員研修プログラムを実践し、検証した。

４．研究成果

(1) 平成 20 年度

初年度として、教員研修プログラムの原案作成のために、「日本の伝統・文化」理解教

育、「日本舞踊」とその教育に関する実践・資料等を、フィールドワーク・インタビューを含めて収集し、整理・検討した。その主な結果をまとめると、次のようであった。「日本の伝統・文化」の理解教育に関して、「日本の伝統・文化」に関する学習指導を実施している学校の実践報告を収集した。例えば、東広島市の小・中学校では、杖道、茶道、尺八・琴の授業実践、蔵人を表現したオペラ等の実践が公開されている。

また、日本舞踊研究の基となる舞踊研究について概括すると、西欧を起源とする舞踊や学校教育におけるダンスに関する研究は数多くみられた。しかし、「日本舞踊」とその教育に関する実践的な研究に関しては、数少なかった。近年では、モーションキャプチャを用いた工学的な日本舞踊の動作分析が始められており、それらの研究の概要についても確認することができた。(日本大学芸術学部 ORCNANA、立命館大学アートリサーチセンター)

このような実践報告や研究手法の資料収集により、今後の日本舞踊を教材とした「日本の伝統・文化」の理解教育を推進する教員研修プログラム開発の基礎となる貴重な資料を検討することができた。

(2)平成 21 年度

前年度に収集した「日本の伝統・文化」や日本舞踊に関連する実践・研究資料の中でも、近年注目を浴びている高額な機器装置であるモーションキャプチャを用いた工学的な動作解析を応用すれば、日本舞踊の基本動作の分析が可能であるという示唆を得た。モーションキャプチャの機器装置は、非常に高額であり、その実験環境も特別なものとなり、解析にも工学的分析が必要となる。しかし、本研究では、その目的が学校教育における教材を想定した教育プログラムを中心にしていることから、工学的分析というよりはむしろ、教育的な見地から、知識・理解を深めるための所作資料の追加が必要と考えた。そこで当該年度は、日本舞踊の基本的な所作を取り上げ、熟練者を対象として、動作の運動学的なメカニズムを検討することとした。

具体的には、動作のフォーム観察のため、動作解析 LAN カメラシステムを用いて、被験者の計測部位にマーカーを貼り付け、被験者の前方と左右側方より撮影・記録し、そのビデオ画像のフレーム毎の動作を３次元解析して、動作情報の収集を行った。その結果、まず日本舞踊の基本的な所作である「お辞儀、蹲踞」では、腹部の屈曲によりマーカーの可視範囲が限定され、今回の解析装置・方法では十分な情報が得られなかった。一方、同じく日本舞踊の基本的な所作である「足の運び」（女歩き）に、上半身の振りを伴う簡単な身体動作を観察したところ、計測部位などによるスティックピクチャー、重心位置などの動作分析が可能であった。そこで、熟練者を対象として分析した結果、その特徴として、動作のぶれが少なく、重心を低く保った「腰を入れる」動作に依拠していることが明らかになった。以上の結果は、日本舞踊を教材とする試案作成に生かされるものと期待された。

(3)平成 22 年度

最終年度として、前年度までに得られた日本舞踊に関連する実践・研究資料、「日本の伝統・文化」やその理解教育に関する実践・研究資料、さらにそれらの教員研修プログラムやその開発に関する実践・研究資料、日本舞踊の基本的な所作に関する研究資料等を総合的に検討した。そして、それらを総括して、日本舞踊を教材とした「日本の伝統・文化」の理解教育に関する教員研修プログラムとして開発した試案を作成し、本研究者がその実践を試みた結果について、検討した。具体的には、その教員研修プログラム試案のプロダクトとして、受講者の自由記述による回答などを交えて、本研究者による和文化の求道者としての体験的な省察を交えながら、総合的に学習の成果を検討した。

なお、これらの研究成果については、学会で発表し、論文として投稿した。本研究で取り上げた日本舞踊を教材とした「日本の伝統・文化」の理解教育や、それに関する教員研修プログラム開発は、その文化的な内容に加えて、その教育方法論そのものも重要であり、今後の他文化共生社会をみすえた日本の学校教育における価値ある教育に寄与すると考えられる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

① 畑野裕子、日本文化理解教育プログラムに関する研究－日本文化身体教材としての日本舞踊の実践を中心に－、日本教材学会研究年報、査読有、第 22 巻、2011、171～182

② HATANO Yuko, Trends and Issues in School Educational Programs on Japanese Tradition and Culture with a Focus on the Field of Dance, 神戸親和女子大学研究論叢、第 44 号、2011、97～104

③ HATANO Yuko, Practical Research on

Teaching Material Development regarding Traditional Japanese Dance "Nihon Buyo" : A Pilot Study focusing on a Teaching Plan for Junior High School Students, Proceedings of The International Conference for the 30th of the Japanese Society of Sport Education, 査読有, 2010, 171-175

〔学会発表〕(計 4 件)

① HATANO Yuko, Trends and Issues of Educational Programs on Japanese Tradition and Culture in School Education with a Focus on the Field of Dance, Das 7. Deutsch-Japanische Sportwissenschaftliche Symposium, 2010 年 10 月 7 日, (第 7 回日独スポーツ科学会議) 中央大学駿河台記念館 (東京都)

② HATANO Yuko, Practical Research on Teaching Material Development regarding Traditional Japanese Dance "Nihon Buyo" : A Pilot Study focusing on a Teaching Plan for Junior High School Students, The International Conference for the 30th of the Japanese Society of Sport Education, 2010 年 10 月 9 日, 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都)

③ 畑野裕子、体育科教育におけるダンス教材の開発 (XⅦ) ―日本文化理解教育プログラムにおける日本文化身体教材の事例―、日本教材学会第 22 回研究発表大会、2010 年 10 月 16 日、帝京短期大学 (東京都)

④ 畑野裕子、外国人学生を対象とした日本の伝統文化紹介プログラムにおける日本舞踊の教材化の試み、第 1 回 アジアスポーツ人類学会大会、2010 年 11 月 20 日、国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都)

６．研究組織

(1)研究代表者

畑野裕子 (HATANO YUKO)

(神戸親和女子大学・発達教育学部・教授)

研究者番号：80167585

(2)研究分担者

無　　(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者

無　　(　　)

研究者番号：